



学校だより

佐渡市立両津吉井小学校

平成29年9月20日

<9月号>

子どもの社会力を育むために ～まずは、我々大人から！～

校長 高橋 喜一郎

先日、5年生が田んぼの稲刈りをしました。伊藤久雄さんを始め、多くの方々からご指導、お手伝いをしていただきました。子どもたちは約2時間、保護者や地域の方とのかかわりの中で、稲の刈り方、置き方、束ね方、そしてはざ掛けのの仕方を教えていただきながら一生懸命に作業をしていました。



このようなふるさと学をはじめとした学校での教育活動全体を通して、子どもたちに、「人が人とながり社会をつくる力」である「社会力」を育もうとしています。

筑波大学名誉教授で『子どもの社会力』『社会力再興』等の著書がある門脇厚司さんは、社会力のおおもとは「他者への関心であり、愛着であり、信頼感である」と言います。また、「社会力を育むためには、できるだけ早い時期から子どもたちと大人たちが出会い交わり共同体験する機会や場を多くすることに尽きる。」と述べています。こうも言っています。

まずは親たちが、自らを励ましながらも、なさねばならないことがある。…自分自身が地域で何らかの活動に参加することである。地域での多様なボランティア活動や団体活動とか、町内でなされるさまざまな行事や催しとか、あるいは学校のPTA活動とか…。そんな活動の何かにかかわり、そこに集まる地域の人々と知り合いになり日常的なつきあいはじめることである。

…残念ながら、若い親たちの世代はこういうことを嫌うメンタリティができあがってしまっているため、なかなか重い腰を上げようとならないのが現実である。…そのことが親たちの社会をいっそうみじめなものにし、ひいては地域の教育力を低下させ、結局はわが子の社会力を育て損ねることになっていることに気づかなければならないのである。

大人の社会力が弱まると、子どもの社会力が育て損なわれるのです。両津吉井小の地域は、鬼太鼓をはじめとした各地域での行事等の活動が充実しており、地域の人と人とのつながりが強く、PTA活動にも積極的に参加していただいていると思っています。

この地区の特長を生かしながら、家庭・地域・学校の大人がさらに協力し、みんなで子どもとかかわりを深め、地域づくり・学校づくりを進めながら、子どもの社会力を育てていけたらと思っています。子どものためにも、大人みんなで社会力を高めていきましょう。